

## 筑波大学附属病院における治療困難な骨髄移植後の再発白血病 に対する遺伝子治療（概略）

筑波大学附属病院（山口巖院長）は、昨年10月に厚生労働省と文部科学省より承認を得た再発白血病に対する遺伝子治療臨床研究を11月2日に行った。

今回の遺伝子治療は、骨髄移植後の再発白血病に対して行われる骨髄供与者からのリンパ球の投与が、時に白血病細胞のみならず患者の健康な細胞までも攻撃することから、あらかじめ投与するリンパ球にレトロウイルスベクターを用いて自爆装置を組み込み、患者に投与するものである。これにより、重い副作用が発症した場合、特定の薬を投与することで自爆装置にスイッチが入り、リンパ球を死滅させ、重い副作用を沈静化させることができる。

今回の遺伝子治療により安全弁付きのリンパ球を用意できることから、今までより多くのリンパ球を投与することができ、現在、治療が困難な白血病に対しても治療効果が期待できる。また、安全な移植も可能となることからドナー不在の白血病患者に対しても移植医療を行うことができるようになる。

白血病に対する遺伝子治療は国内で初めてである。